

「博物館所蔵歴史資料の防災に関するワークショップ」を開催しました(2019/8/25)

テーマ：歴史資料，歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業，
 場所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（北海道札幌市）

8月25日（日）、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W205教室にて、「博物館所蔵歴史資料の防災に関するワークショップ」（主催：北海道大学文学研究院 北方研究教育センター、東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門歴史資料保存研究分野、歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業 東北大学拠点）を開催しました。本ワークショップは、東北大学と神戸大学、人間文化研究機構の3者協定に基づく「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」において実施されるもので、昨年夏に発生した「北海道胆振東部地震」を受けて、北海道における博物館資料の保全や防災についての議論の場として開催しました。当研究所からは佐藤大介准教授、川内淳史准教授（いずれも人間・社会対応研究部門）が参加しました。

会に先立ち、北海道大学文学研究院 北方研究教育センターの白木沢旭児センター長（文学研究院教授）より開会挨拶が行われた後、当研究所の佐藤大介准教授より「3.11での歴史資料レスキュー：宮城県での活動を中心に」と題して、東日本大震災を中心とした宮城県における地域歴史文化資料の救出・保全活動の経過や現状と課題などについて話題提供がなされ、次いで小樽市総合博物館の菅原慶郎学芸員より「北海道の博物館施設における防災対策の現状と課題：歴史資料に留意して」と題して、道内の博物館施設における防災対策の現状や課題、また胆振東部地震に際してのとりくみについて話題提供がなされました。

休憩をはさんで、「東北からのリプライ」として、菅原報告で出された東北側への質問に答える形で、当日参加した宮城県と福島県からの学芸員による報告がなされ、次いで参加者全員によるフリーディスカッションが行われました。

当日は16名の参加者を得て、東日本大震災における歴史資料保全の経験の共有や、北海道における歴史資料の防災について議論を深めることができました。今後も本事業において北海道大学との連携を通じて、歴史文化資料の保全に向けたネットワークの構築を進めていきたいと考えています。



白木沢旭児センター長の挨拶



佐藤大介 准教授



菅原慶郎 学芸員



参加者の集合写真